

石川県漁海況情報

448号
2020年4月17日発行

石川県水産総合センター 電話 0768-62-1324 FAX 0768-62-4324
ホームページ <http://www.pref.ishikawa.lg.jp/suisan/center/sigenbu.html>
携帯電話 http://www.pref.ishikawa.lg.jp/mobile/suisan/center/sigenbu_files/p-index.html



本号の概要

フクラギ漁・寒ブリ漁・冬期のスルメイカ漁のまとめ

- フクラギの合計水揚量は過去5年平均並みとなり、寒ブリは過去10年平均を大きく下回りました。
- 冬期のスルメイカの合計水揚量は413トンであり、過去5年平均並みとなりました。

石川県主要港の水揚状況（期間:3月16日～31日）

- 定置網ではマイワシ、まき網ではサバが好調でした。

水産総合センター・トピックス

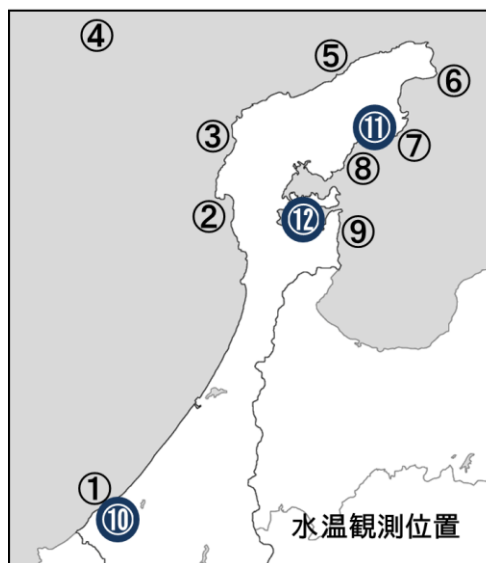
- 「マイワシの資源と漁況の現状」

石川県周辺海域の水温（期間:4月1日～4月5日）

■ **沿岸の海面水温** 4月5日の本県周辺（海岸線より30海里程度）の海面水温は11～12℃台で、過去5年平均との差は+0.5℃程度でした。

■ **沿岸観測ブイの水温** 今期の水温は11.4～12.3℃で、3月中旬から0.1℃低下しました。前年同時期との差は+0.3～+0.7℃、過去5年平均との差は+0.5～+0.7℃でした。

■ **港内の水温** 今期の水温は11.9～12.9℃で、前年同時期との差は+0.5～+1.3℃、過去5年平均との差は+0.2～+0.8℃でした。



沿岸観測ブイの水温（深度10mの値）

観測位置	5日間平均 4/1～4/5	前年差	過去5年 平均差
① 橋立沿岸	12.3	データなし	+0.5
② 富来沿岸	12.0	+0.7	+0.6
③ 門前沿岸	メンテナンス中	データなし	データなし
④ 猿山岬沖	メンテナンス中	データなし	データなし
⑤ 曾々木沿岸	メンテナンス中	データなし	データなし
⑥ 小泊沿岸	11.4	+0.4	+0.7
⑦ 小浦沿岸	11.5	+0.4	+0.7
⑧ 鶴川沿岸	11.4	+0.3	+0.6
⑨ 岸端沿岸	11.4	+0.3	+0.7

港内の水温（深度1.5m・午前9時の値）

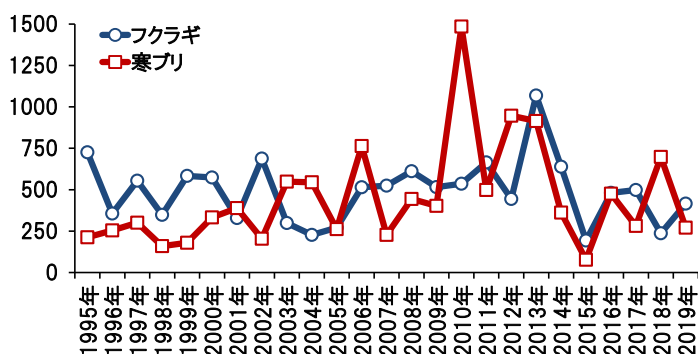
観測位置	5日間平均 4/1～4/5	前年差	過去5年 平均差
⑩ 橋立港	12.9	+0.5	+0.5
⑪ 宇出津港	11.9	+0.6	+0.8
⑫ 石崎港	12.4	+1.3	+0.2

フクラギ漁および寒ブリ漁のまとめ

■ 今期(2019年10月～2020年3月)の定置網によるフクラギの水揚量は416トンで、前年(236トン)を上回り、過去5年平均(409トン)並みとなりました。漁海況情報439号では、今期の水揚量を432トンと予想しており、ほぼ予想どおりの水揚げでした。

■ 今期(2019年11月～2020年3月)の定置網による寒ブリの水揚量は271トンで、前年(698トン)および過去10年平均(614トン)を大きく下回りました。能登半島周辺の水温分布はブリの来遊に適した条件でしたが、2015年・2016年生まれの資源が少なく、このことが水揚げの減少に大きく影響したものと考えられます。今後、水温、資源量、回遊など様々な要因を再検証し、予測精度の向上に努めていきたいと考えています。

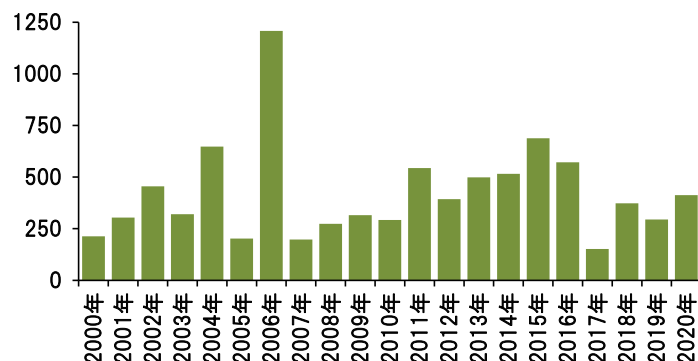
単位(ト) 主要10港の定置網によるフクラギ・ブリ水揚量



冬期のスルメイカ漁のまとめ (期間:2020年1月～3月)

■ 今期の定置網による水揚量は413トンであり、前年(294トン)を上回り、過去5年平均(416トン)並みでした。漁海況情報440号では、今期の水揚量は前年並みで、過去5年平均を下回ると予想しており、予想を上回りました。今期は1月の能登・秋田沖の50m深水温が高く、スルメイカの来遊に不適な条件であったものの、2月の水揚げが比較的良好であり、今期の水揚げを押し上げました。

単位(ト) 主要10港の定置網によるスルメイカ水揚量



石川県主要港の水揚状況 (期間:3月16日～31日)

■ **定置網** ブリ、スルメイカ、カタクチイワシ、マアジは前年を下回りました。マイワシは1,506トン水揚げされました。2月から3月までの累計は1,567トンで、前年(47トン)を上回り、過去5年平均(3,099トン)を下回りました。

■ **まき網** サバは前年を上回り、マアジは前年を下回りました。

■ **底びき網・ごち網** ニギス、アカガレイ、マダラ、アマエビ、ソウハチは前年を上回り、ハタハタ・フグ類は前年を下回りました。

■ **刺網・釣り・その他** ナマコ・ヤナギバチメ・フグ類は前年を上回り、ベニズワイガニ・フクラギ・コソクラは前年を下回りました。

集計期間 3月16日～3月31日 (水揚量の単位はトン)

魚種	水揚港							期間合計	
	橋立	金沢	富来	輪島	珠洲地区	宇出津	七尾地区	本年	前年
定置網									
まいわし					155.3	375.7	975.2	1506.2	8.5
ぶり					0.8	23.1	5.1	29.0	83.4
するめいか					0.4	1.5	14.7	16.5	21.4
かたくちいわし					9.1	5.3	1.4	15.8	63.6
まあじ			0.0		0.9	3.1	5.4	9.5	15.9
うるめいわし					0.0	4.3	0.9	5.2	3.1
さば					0.8	2.0	2.4	5.2	4.2
かわはぎ(ウマヅラ)			0.0		0.3	1.4	1.6	3.2	1.9
さわら・さごし					0.3	0.4	1.3	2.0	2.0
まだら			0.1		0.2	0.8	0.7	1.8	2.2
ふくらぎ・こそくら			0.0		0.6	0.9	0.0	1.5	0.1
まだい			0.0		0.2	0.6	0.6	1.4	1.7
すずき					0.2	0.1	0.4	0.7	1.0
その他			0.2		1.0	8.4	5.9	15.6	24.4
合計			0.3		170.0	427.7	1015.7	1613.7	233.5
まき網									
さば	—	27.7			311.8	—	233.2	572.7	246.1
まあじ	—	0.9			1.8	—	5.8	8.5	142.5
すずき	—				0.0	—		0.0	0.7
さわら・さごし	—				0.0	—		0.0	0.5
その他	—				0.0	—	0.0	0.1	5.5
合計	—	28.6			313.7	—	239.1	581.4	395.3
底びき網・ごち網									
にぎす	0.5	25.9	21.5	0.0	0.0	0.2	—	48.1	29.0
あかがれい	13.6	12.2	8.8	10.5	0.4		—	45.5	22.3
まだら	0.5	1.4	0.9	22.9	2.8		—	28.6	5.2
あまえび	1.1	10.5	0.9	10.6	4.8		—	27.8	12.2
はたはた	8.0	3.4	0.6	4.2	5.1	4.4	—	25.7	31.4
ふぐ類	1.3	0.8	5.6	3.8	0.0		—	11.4	35.6
そうはち	3.2	2.6		4.8	0.1		—	10.7	3.9
ほっけ	0.4	0.0		5.4	0.0		—	5.8	0.8
なめたがれい(ヒレグロ)	1.0	1.3	0.5	2.5	0.2		—	5.4	6.1
その他	5.1	19.5	5.2	11.3	3.7	0.8	—	45.6	41.5
合計	34.7	77.6	43.8	76.0	17.1	5.4	—	254.5	187.9
刺網・釣り・その他									
べにずわいがに		43.0	8.6					51.6	65.3
ふくらぎ・こそくら				21.1	0.4			21.5	70.0
なまこ			0.0	0.0	0.3	14.6	0.7	15.6	11.0
やなぎばちめ(ウスマバル)	0.0	0.0	3.2	9.7	0.0	0.1	0.3	13.5	8.1
ふぐ類	0.0	0.0	0.3	10.0		0.0	0.0	10.3	2.5
あからばちめ(ハツメ)			0.0	5.0				5.0	0.1
あまえび			4.0			0.0		4.0	4.6
するめいか						2.4	0.6	3.0	1.2
その他	0.9	1.6	4.5	13.8	2.0	7.9	9.2	39.9	47.6
合計	0.9	44.7	20.6	59.6	2.7	25.0	10.8	164.3	210.4
総計	35.6	150.8	64.8	135.6	503.5	458.0	1265.6	2613.9	1027.1

注: 宇出津は松波港を含む、富来・輪島は一部未集計

マイワシの資源と漁況の現状

■ 石川県のマイワシの水揚量は長く低迷していました。しかし、近年、増減は大きいものの、水揚量が10,000トンを超える年もみられるようになってきました。

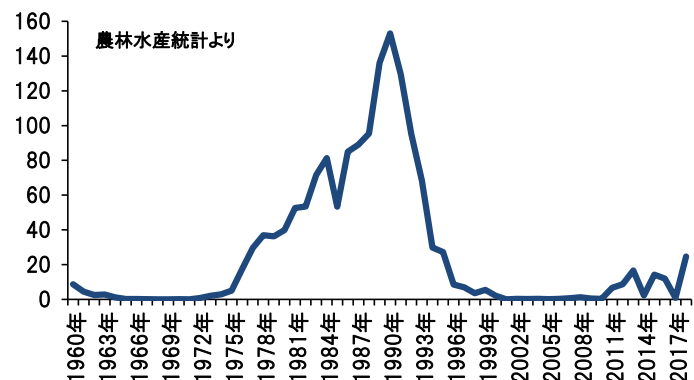
■ 日本周辺海域で漁獲されるマイワシには対馬暖流系群と太平洋系群の2つがあり、日本海では主に対馬暖流系群が漁獲されます。対馬暖流系群の資源量は1970年代以降急増し、1988年にピークに達しました。その後、資源量は急速に減少し、2001～2003年には低水準で推移していましたが、2004年以降、増加する傾向にあります。本県のマイワシの水揚量は資源量と同様に増減しており、近年は増加する傾向にあります。年々の変動が大きいことが特徴です。

■ そこで、石川県と島根県の水揚量を比較してみました。水揚量は、2017年には石川県で減少、島根県で増加し、逆に、2018年には石川県で増加、島根県で減少しています。これは、マイワシの分布が両年で異なっており、2017年には山陰沖、2018年には能登半島沖に偏って分布していたためと考えられます。また、2014年は両県ともに水揚量が少なく、マイワシは沖合に分布し、沿岸への来遊が少なかったと考えられています。

■ 今年は3月23日からマイワシの漁獲が本格化しています。昨年より9日早く、豊漁であった2018年より43日遅い漁期入りとなりました。今年は1月から太平洋側や山陰沿岸でも好漁となっています。今後も漁況を注視していきます。(白石宏己)



単位(千トン) 石川県のマイワシ水揚量



単位(千トン) 石川県と島根県のマイワシ水揚量

